

輸出事業計画

※申請者名：丸山製茶株式会社 品目：茶

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・丸山製茶(株)は1933年に創業し、地元農家と協力して製茶販売を開始。2003年からは海外事業も開始。
- ・主要な輸出先地域は北米、EU諸国、アラブ諸国、アセアン諸国であり、80以上の国・地域と取引実績がある。
- ・緑茶、特に抹茶・粉末茶を中心に、北米、EU諸国の展示会へ積極的に出展し、販路維持拡大を実施。
- ・安定した販売先や販売ルートにより、2024年度輸出額4,024百万円、輸出量920トンの実績となる。

【課題】

- ・世界的な抹茶ブームもあり、輸出先における有機茶需要が高まる一方、有機茶の栽培圃場が不足している。
- ・碾茶加工についても、需要の急増に対して作業・製造が追いついておらず、現在は掛川市外を含む関連企業への外注により対応できているものの、製造ラインを強化（自動化、機械導入等）する必要がある。
- ・輸出相手国や取引先から求められる基準、規制等をクリアするため、検査・検知器の設置により品質管理体制を一層強化する。



2. 輸出事業計画の取組内容

【生産・製造】

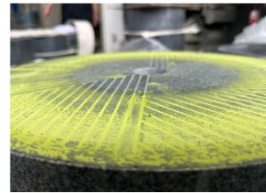
- ・有機栽培の自動化・省力化に向けた、平坦で広い区画の圃場整備を推進し、掛川産及び県内県外の有機抹茶の原材料確保と碾茶製造工場の新設や確保に努める。
- ・掛川市内での碾茶製造体制を確立し、将来的には自社による工場新設や空き工場取得も視野に入れ、輸出量の増加に対応できる製造環境の整備と併せ、貯蔵施設の整備にも注力する。

【加工】

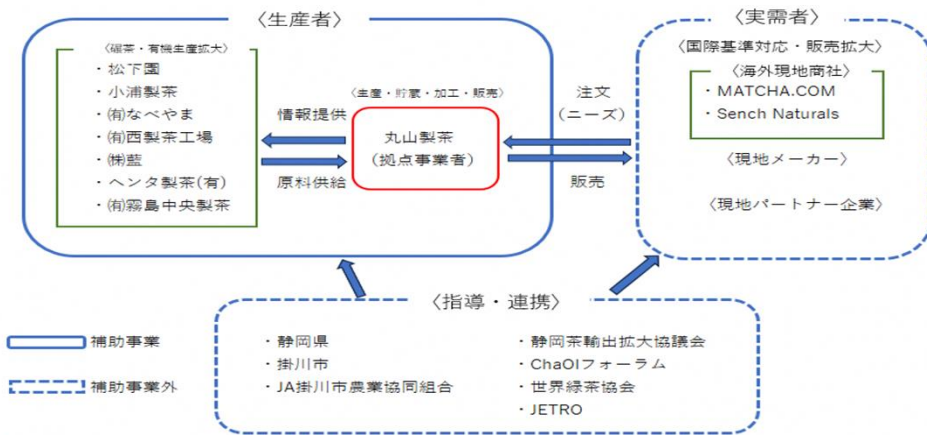
- ・輸出の中心は抹茶である。抹茶の原料である、碾茶の製造工場をはじめ、碾茶の精製加工工場を整備し、さらに粉碎から充填・包装までを一貫して行える体制を確立させる。特に粉碎工程においては、伝統的な石臼引きの粉碎方法に加え、高速大型の気流式微粉碎機を導入し、顧客の多様な要望に応えられる工場とする。

【販売】

- ・FSSC22000、コーシャ認証やハラール認証、レインフォレスト・アライアンス認証等も取得済みであり、良質で安心安全な製品の安定提供に努め、世界各国・地域の取引先からより一層の信頼を獲得し、既存取引先への販売増だけでなく、新規取引先獲得や未取引国への販路拡大につなげていく。



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和5年度）	目標年（令和11年度）
輸出額（円）	2,196,304,216	5,000,000,000
輸出量（t）	498	1,100
輸出先国	EU・米国・台湾・ロシア・カナダ他	北米・EU・アラブ諸国・アセアン諸国他